



有害物質から子供を守る会ネットワーク

会報 No. 5 2019/1/27

「練り歯磨き（ライオン・クリニカ）」



スーパーマーケットで見つけた練り歯磨き。その成分を書き移します。

(独自判定⇒安全：○、危険：×、不要：△、不明：?)

湿潤剤：

ソルビット液＝ブドウ糖を還元した糖アルコール。天然にもある。⇒○

P G＝プロピレングリコール。防腐作用あり。弱いが局所刺激性あり。⇒△

清掃剤：

無水ケイ酸 A、無水ケイ酸＝二酸化ケイ素の粉体、(Aは会社に問い合わせたところ、粒子径をそろえた白色粉末。) 研磨⇒過度の研磨は良くない。⇒○

発泡剤：

ヤシ油脂脂肪酸アミドプロピルベタイン液：弱い洗浄作用。粘膜、皮膚刺激性⇒△

P O E 硬化ヒマシ油＝ポリオキシエチレン基をつけたヒマシ油で非イオン界面活性剤⇒△

P O E ステアリルエーテル＝略称 A E，界面活性剤⇒△

ラウリル硫酸 Na＝陰イオン界面活性剤。皮膚、粘膜に刺激性。⇒×

薬用成分：

O E G 4 0 0 0＝高分子ポリエチレングリコール（浸透調節剤）。粘膜刺激性⇒△

ポリリン酸 Na＝歯石形成の抑制、ホワイトニング効果⇒△?

フッ化ナトリウム（フッ素として 1450ppm）＝抗菌作用はあるが、危険⇒×

デキストラナーゼ (DEX)＝歯垢の分解⇒△

ラウロイルサルコシン (LSS)＝殺菌作用⇒×

香味剤：

香料（ソフトミントタイプ）＝△

サッカリン Na＝合成甘味料⇒△

粘度調整剤：

カラギーナン＝直鎖含硫黄多糖類⇒分解産物に発がん性（グループ 2 B）⇒△

アルギン酸 Na＝海藻由来の粘液多糖類。粘膜への弱い刺激性⇒○

安定剤：

酸化 Ti＝白色顔料⇒○

D, L-アラニン＝非必須アミノ酸、保湿作用⇒△

グリセリン脂肪酸エステル＝乳化剤⇒○

粘結剤：

キサントガム＝多糖類⇒△

清涼剤：

メンソール＝ハッカ油から精製⇒○

清涼剤：

テトラデセンシルホン酸 Na＝陰イオン界面活性剤。歯垢分散?⇒×

ヒドロキシエチルセルロースージメチルジアリルアンモニウムクロリド＝コーティング剤。

洗髪後のリンスの成分。「別府耕次 毛髪コンディショニング剤」で Google 検索すると詳しい総説論文が読めます。歯の表面についてフッ素イオンを留めるといふ。⇒△

比較<太陽油脂 K. K. のパックス石鹼歯磨き>

研磨剤：

炭酸 Ca=貝殻、大理石などの主成分⇒○

湿潤剤：

グリセリン⇒○

基剤：

シリカ=○

清浄剤：

石鹼素地⇒○

清涼剤：

ハッカ油=前記⇒○

ユーカリ油=常緑高木のユーカリの精油⇒呼吸器系に入ると喘息症状など。⇒△

粘結剤：

カラギーナン=前記⇒△



<感想>

- ・練り歯磨きに限らず、原材料の表示すべての問題ではあるが、各成分の量的な記載がないこと。使用頻度や推定摂取量が分かっても、その安全性・有害性が推定できない。
- ・フッ化ナトリウムについては唯一、濃度が記載してあるが、その濃度が1.5倍になって有害性は増した。歯磨きの回数が増えて、フッ化物洗口が併用されると、斑状歯が増加し、後で骨肉腫や癌が増えるであろう。殺菌効果で虫歯予防の効果は強くなるかも知れないが、子供にとってはフッ化ナトリウムは毒物（LD50<30mg/kg）であり、使うべき成分ではない。
- ・ライオン製品は「歯垢の除去及び付着予防/ムシ歯予防/歯石の沈着の予防/口臭予防/口中浄化のトータルケアをこれ一本で」と宣伝している。各成分のそれぞれに作用・効果を書いているが、本当に働いているのかは疑わしい。たとえば、酵素は歯磨きをするような短時間で、その効果が発揮されるとは思えない。「名目上」の作用・効果で、「本当の有効性」は証明されていない。
- ・過敏な人では味覚の低下も起こると考えられる。また、数年、数か月にわたる口内炎があれば、練り歯磨きをパックス石鹼歯磨きのような安全なものに代えて、様子を見たほうがよいと思う。
- ・添加物が含まれていても、飲み込まないから問題はないと考えている保護者は多いと思う。しかし、毎日、数回は使って、使用量の1割程度が体に入ることを思うと、クリニカのような歯磨き剤は使うべきではない。また現在、日本で売られている練り歯磨きの約9割には無機フッ化物が添加されており、使用不適格だと思う。
- ・松井和枝さんから、「各成分の経粘膜吸収率も考慮する必要がある」との指摘をいただきました。高分子のものは吸収性が低いと思われます。分子量の少ない物質や界面活性剤の吸収率は意外と高いかもしれません。宿題とします。
- ・工藤由美子さんのコメント：「歯磨き剤エチケットライオンは、同じライオン製品でも、フッ素は入っていないと思います。聞き取りをすると、子供は歯磨き剤をよく飲み込んでいて、中には美味しいと思ってなめている子供もいました。小学校に勤めていたときは、そもそも歯磨き剤は、飲み込んではいけないことを周知していく中で、フッ素の危険性にも触れていくようにしていました。幼児を持つ保護者にも、もっと周知する活動が必要ですね。」

（文責：加藤純二）